

Rachel Grimes IFAC 会長と若手会計士との座談会について

平成 29 年 3 月 22 日 (水) に Rachel Grimes 国際会計士連盟 (IFAC) 会長及び Fayezul Choudhury IFAC CEO と、日本公認会計士協会の若手会計士を交えて座談会が開催されました。

座談会参加者

- ・ Rachel Grimes 氏 (IFAC 会長)
 - ・ Fayezul Choudhury 氏 (IFAC CEO)
 - ・ 関根愛子氏 (日本公認会計士協会会長)
 - ・ 梅木典子氏 (日本公認会計士協会広報委員会委員長、女性会計士活躍促進協議会委員)
 - ・ 林佳緯氏 (日本公認会計士協会準会員、女性会計士活躍促進協議会委員)
 - ・ 山本健太郎氏 (日本公認会計士協会準会員)
- 司会進行担当
- ・ 林敬子氏 (日本公認会計士協会常務理事)

1. 公認会計士の働き方の多様化・キャリアの多様化について

林常務理事

まずは、「公認会計士の働き方の多様化・キャリアの多様化」をテーマに話を進めたいと思います。

会計士は監査法人からキャリアを出発させることが多いのですが、山本さんは組織内会計士からキャリアを出発させていますので、本テーマについて山本さんから話をスタートしていただければと思います。



山本 氏

会計士試験合格後、多くの合格者は監査法人に就職しましたが、私は教育に携わってみたいと考えておりましたので、教育の分野へと足を踏み入れました。

Grimes 氏は、どのようなきっかけで組織内会計士としてのキャリアを進んだのか、また、組織内会計士となって良かった点を教えてください。



Grimes 氏

まずは合格おめでとうございます。また、大変素晴らしいキャリア選択をなさったと思います。

オーストラリアには Alex Malley という人物がいて、この人は教育の分野からキャリアを出発させ、今は CPA オーストラリアの CEO に就任しています。いずれは山本さんも、日本公認会計士協会の専務理事にまでなるかもしれません。

私は、会計士としてのキャリアを当時のプライスウォーターハウスから開始しました。そこで受けた訓練というものが、今の私の基本となっています。

初めは、「プライスウォーターハウスでパ

ートナーの地位にまでなろう」ということしか考えていませんでした。しかし、当時最も優秀だと言われていた会計士たちがバンカース・トラストへと移籍し、彼らからの誘いがありバンカース・トラストへ移籍することとなりました。誘いを受けた時にとても悩みました。

しかし、移籍した優秀な会計士と仕事をしたいと思ったこと、また、プライスウォーターハウスが、「いつでも戻ってきていい」と言ってくれたことから移籍するという決断をしました。



組織内会計士のメリットは、様々なキャリアを経験するチャンスを得ることができることにあります。営業、製造、財務、M&A など、私は多様な経験をすることができました。

林常務理事

Grimes 氏のお話を聞き、関根会長はどのように感じられましたか。

関根会長

私も、Grimes 氏と同じくプライスウォーターハウス出身で、会長になるまでパートナーとして働いていましたが、監査法人に入社した当初は、「パートナーになろう」とは思っていませんでした。

「資格を持っていれば、柔軟な形で働くことができ、いろいろな経験ができるのではないかと考え、監査法人以外のキャリアにも、興味を持っていたことを覚えています。

自分の置かれた環境下で、最も良いと思うキャリアを模索することが大切であると思います。



林常務理事

監査法人でも監査法人以外でも様々な経験を積むことができることが、会計士にとってのメリットですね。特に、「いつでも戻ってきていい」と言っていただけのは心強いですね。

関根会長

私も、監査法人時代、退職する方には、「いつでも戻ってきていいよ」と声をかけるようにしていました。

2. 会計士のグローバルな活躍について

林常務理事

続いて、「会計士のグローバルな活躍」をテーマに話を進めていきたいと思います。

林佳緯さんは、「国際的に活躍したい」という希望をお持ちであるとお伺いしています。このテーマについて気になることは何でしょうか。

林 佳緯 氏

私は、会計士試験に合格した時から、ずっと「国際的に活躍したい」と考えてきました。「海外で会計士として働く」ということについて、私は「監査法人に勤務して海外駐在しスキルを磨く」ということをイメージしていますが、他にはどのような選択肢があるのか教えてください。



Grimes 氏

国際的に活躍するという希望を持っていることは、大変素晴らしいことだと思います。

海外でのチャンスは様々ありますが、まずは監査法人に勤務し海外勤務を経験することが良いと思います。海外での勤務では孤独を感じる人が多いのですが、監査法人に勤務し海外駐在することでそのような不安を払拭できるようになります。

「英語力があれば海外の会計士を受け入れる」という国や国際機関もあるので、そうした制度も積極的に活用してほしいと思います。

また、国連開発計画(UNDP)の駐日代表事務所に訪問しましたが、途上国のために素晴らしい取組をしているという話を伺いました。UNDPの活動の中で会計士が活躍できる場が多くあるという話が、深く印象に残っています。

会計士は、非常にチャンスに溢れている職業であると思います。

Choudhury 氏

途上国の開発というフィールドで会計士

が活躍できる場面は多いです。

日本では会計士の活躍の場が多いため、国際的な分野に進出する日本人が少なく困っているため、日本の会計士には海外にも目を向けていただきたいと思っています。



関根会長

日本公認会計士協会においても、海外で活躍する会計士を増やすための取組を進めているところです。会計基準や監査基準は、基本的に、国際的に統一化されており、簿記の仕組みは言葉が違って万国共通です。会計士は広く海外でその専門性が通用する珍しい資格であると思います。

しかしながら、海外を舞台に働くことができるという会計士の魅力があまり一般的に知られていないため、しっかりとアピールをしていきたいと考えています。

3. 会計士とワークライフバランス

林常務理事

続いて、「ワークライフバランス」をテーマに話を進めていきたいと思っています。

このテーマは私自身大変興味を持っているところで、ぜひ、「ワークライフバランス」の実現について Grimes さんのお考をお伺いしたいと思います。

Grimes 氏

仕事と私生活のバランスを上手に取ることは容易ではないと感じています。

バランスを取るというよりも、仕事にやりがいを持ち、面白いと感じることが、もっとも大事ではないかと考えています。私の場合、自身のライフイベントを、「仕事」、「家族」、「チャリティ」、「IFAC」、そして「自分自身」という、5つのセグメントに分けて考えています。それぞれの比重が変わることはありますが、全てを楽しむことが大事です。私は、全てを「楽しい」と考えるようにしています。

梅木 氏

「日本人は仕事に偏りがち」という話がありますが、仕事もプライベートも「楽しむ」という感覚は、とても新鮮ですね。

Grimes 氏

こうした座談会も含めて、楽しむことが大事です。

梅木 氏

日本の会計士試験合格者に占める女性の比率は 20%程度ですが、会計士としてのキャリアを重ねるにつれてこの比率が少なくなっています。その一方、世界では、活躍している女性の比率は大きいと聞いています。海外で活躍する女性会計士について、どのようなお考えを持っていますか。



Grimes 氏

IFAC が持つ 40 年の歴史の中で、私の前任が初代の女性会計士であり、私自身は二代目の女性会長です。日本公認会計士

協会の会長も女性であり、会計士業界全体が、世界的に新たなステージへと踏み出し始めたのではないかと思います。

会計士は教育水準が高いため、復職しやすいというメリットがあります。そのことを踏まえ、日本公認会計士協会もまた、復職しやすい環境を整えることが必要ではないでしょうか。女性の会計士が継続して業務に当たれるよう、フォローアップのための取組を進めることが重要です。

IT 化の時代を迎え、IT を活用することが解決の糸口となるでしょう。IT 化が進むことによってオフィス以外の場所でも仕事をできるようになります。最新のテクノロジーを仕事に導入して働き方を変えることも大切です。

関根会長

私が会計士試験に合格した時は合格者に占める女性の割合は6%程度でした。その後しばらくして上昇しましたが、今もまだ、合格者に占める女性の割合は20%程度の水準にとどまっています。また、せっかく会計士になってもその後仕事から離れてしまう方もいて、女性会計士の活躍が求められる中で、女性が会計士を辞めてしまうことは大変もったいないと感じています。

会計士には様々な道があります。必ずしも監査業務に従事する必要はありませんし、監査業務に従事する場合であっても柔軟な働き方が可能です。

日本では、国を挙げて女性の活躍促進を行っています。特に会計士は、他のプロフェッショナルと比べても、一番働きやすいのではないかと思います。

4. テクノロジーの未来と会計士に必要とされる能力について

林常務理事

それでは、せっかくの機会ですので、これから会計士として活躍するために準備していくべきことについてお伺いしてみたいと思います。まずは、山本さんお願いします。

山本 氏

AIの進歩によって、未来の監査の現場は大きく変わるのではないかと感じています。未来の監査に向けて、会計士が準備すべきことについて教えてください。

Grimes 氏

若い会計士にとって何よりも重要なのは、コミュニケーション能力だと考えます。

会計士の仕事は、人を相手にするものであるということを忘れてはいけません。AIはコミュニケーションができないというところに、大きなデメリットがあります。

テクノロジーを恐れるのではなく、活用していくという姿勢が必要です。退屈な作業はAIに任せ、人間と付き合う楽しい仕事は会計士がやるべきだと思います。

林常務理事

それでは、続いて林佳緯さんお願いします。

林 佳緯 氏

国際的に活躍する上で、大切なスキル、心構えについて教えてください。

Grimes 氏

私が採用の時に履歴書で確認するのは、

その人はチームプレーを行った経験があるか、ということです。

また、前向きな思考であること、他者のために働けることも、大切な能力であると考えています。

関根会長

仕事の様々な場面で、いかにポジティブになることができるのが大切だと思います。例えば、アシスタントの仕事であっても、アシストするリーダーの考え方の片鱗を知ることができるでしょう。

友人を作ること、様々な方と接することも大切です。自分の意見を持つことは重要ですが、意見の違う人と接することもさらに重要だと思います。



林常務理事

何事も楽しむこと、ポジティブに行動し、多様な意見を吸収していく心構えも大切だということですね。

みなさん、本当にありがとうございました。

以上

(日本公認会計士協会 広報室)